

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500051
法人名	医療法人 健育会
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地	鹿児島県姶良市西餅田139番地4 (電話) 0995-66-2541
自己評価作成日	平成28年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・あなたの思いを聴きながら、寄り添い、あなたらしく、ゆっくり安心した時間を過ごして頂けるように、支援します。

・私たちは家庭的な温もりの中で、一人ひとりの有する能力に応じたできる事や役割(菜園 調理 裁縫)等を持ち続ける事が出来るように、支援します。

・母体が併設された医療法人のため、日頃の健康管理や緊急事態が生じた時は主治医との連絡も早く取られ、ご家族にも安心を得ています。

・玄関先には季節の花を植え、季節の野菜栽培、収穫も楽しんで頂いています。またホーム内は、季節を感じて頂けるように壁面等の装飾にも取り組んでいます。

・これからも、地域の行事などに参加し、交流を持つことで地域の一員としての、人との関係が途切れないよう、支援して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は母体医療機関が隣接しており、日頃の健康管理や緊急時の対応などの医療のバックアップ体制が整っている。

・自治会に加入し、地域の行事にも積極的に参加している。さらに介護の相談を受けたり勉強会を行うなど地域との良好な関係が築かれている。

・利用者個々人が張り合いや喜びに繋げるように、菜園作業や調理・裁縫などの得意分野を活かしながら、その人らしい生活ができるように、支援に取り組んでいる。

・旬の食材で利用者の希望に添った献立や食事形態を工夫している。利用者の力量に応じて、料理教室があり利用者もエプロンをつけてお好み焼きやそば打ち・餃子・漬物等を作って楽しんでいる。

・管理者は、職員育成に力を入れて働きやすい環境作りに配慮している。職員はケア対応等の更なる向上を目指している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はオープン時に職員で話し合いを持ち定め、施設内に掲示している。朝夕の申し送り時に唱和し、職員全体の意識づけと方向性を保っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を開設時に職員たちで作成し、玄関ホールに掲示し、パンフレットや便りにも掲載している。申し送り時に唱和し職員会議やミーティングで振り返り実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域との親睦を深めるように努力している。近隣を散歩することで挨拶や会話を交わしたり、畑仕事を見る事ができ、また、収穫した野菜や果物を頂きながら、地域の方々との関わりを深めるようにしている。	自治会に加入し、ホームでしている体操を地域サロンで依頼があり教えている。市の登録ボランティアの踊りや三味線等を受け入れている。認知症に関する問題など語り合ったり、キャリア教育等の実践者研修の受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域のサロン会に参加し、参加者に、認知症ケアの理解を高めるための勉強会やレクリエーションを行って、関係作りをしている。キャリア教育支援等の研修生を受け入れ、学びの場を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会メンバーに参加可能な日程を尋ね、年6回開催している。グループホーム運営等理解していただいた後に、参加者の希望による勉強会（感染症・外部評価の目的）も行っている	会議は定期的開催している。事業所の現状報告や外部評価の報告などがなされ、委員からも多くの助言や提案がある。意見の中で介護に関する勉強会を持ちたい等の意見により実施している。会議での情報や提案はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者に運営推進委員会出席を頂き、現場の実情や取り組み等を伝え、助言を得る機会を作っている。また、サービス向上を図るために市主催の研修等にも参加するようにしている。	市の担当者とは、日頃から電話や窓口に出向き、事業所の状況や利用者の相談・情報を交換して助言を貰っている。運営推進会議を通して協力関係もできている。市主催の研修会にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について勉強会を定期的に行い身体的被害、精神的被害、社会的被害をもたらす事を全職員が理解している。言葉をさえぎったり、行動を抑制したりする事が無いようにしている。家族に理解をもとめ、安全面と離脱防止のため玄関は施錠を一時行う場合もある。	事例や課題に基づいて定期的に勉強会を実施し、職員の共通認識を図り、身体的・精神的・社会的拘束の無いケアを目指し、とくに言葉による拘束も含め拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関の施錠について、施錠をしないケアを含め、全職員で取り組んでいる。徘徊やいろいろな場面の工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等での勉強会を含めて、高齢者虐待の意味を理解し、高齢者虐待をしないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員全体での勉強会を実施し、権利擁護に関する制度への理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要項目説明書等を、利用者・家族へ詳しく分かりやすく説明し質問及び、理解を得て署名・捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、カンファレンス・行事等で家族と面談の機会を多く持つよう心がけている。家族の意見を出しやすい雰囲気づくりにも努めており意見や要望も頂いている。その意見、要望等は、勉強会やミーティング等を持ち職員間で共有し必要に応じて、対応を行っている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き思いを把握している。家族からは面会や行事参加時、運営推進会議などがよい機会となっている。「家族の希望・本人の希望」という記録簿があり、さまざまな場面で記録し介護計画のベースとなっている。出された意見や要望等は職員で話し合い、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的な会話の中で職員と話す機会を多く持っている。相談事は個別に聞き内容に応じて対応している。代表者と管理者の話し合いの機会も多く持たれており職員の意見も取り入れられ、運営に反映している。	「職員の希望・訴え」という記録簿があり、日常的に意見が出しやすく、個人的にも相談しやすい体制を取っている。職員で行事担当を決め責任をもって運営に当たっている。管理者は、日々の申し送りや会議等において職員の意見や提案を聞き、反映を図るよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は職員の勤務状況を十分に把握し、労働時間・休みについても希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や法人内研修への参加、年間行事計画に沿って月1回、勉強会を行い、知識を得られるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で開催される勉強会や研修を通じて交流を図り、職員のサービスの質の向上に役立てている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族との面談を行ったりし、信頼関係を築くようにしている。また、生活歴・状況を伺い、出来る限り生活に沿った寄り添うケアを実践し、ホームでの生活に慣れていただくよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と家族との関係を理解した上で家族の話をしっかり受け止め、双方それぞれの不安がない関係作りを心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族とそれぞれ面談を行い、現時点で今何が一番必要とされているかを汲み取りながら必要とされるサービス内容のプラン実施を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること(野菜作り、料理等)を見極め、それぞれの役割や出来る事の喜びを味わえるように努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、ホーム内での行事等には声掛けを行い、家族との時間を持つことで家族の一員であることを本人に知って頂き、絆を深める事が出来るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人の面会は、本人の了解を得て行い、関係の継続を支援している。また、家族の協力を得ながら自宅に外泊・外食や買い物等の支援も行っている。要望に応じ行きつけの美容院の送迎もしている。	家族の協力のもと、関係継続支援により、月一回帰宅する人、家の畑に行く人、友人に会う人、馴染みの理美容院に行ったり、地域の行事に参加したり、かかし祭りを見に行ったり、外泊・外出等、さまざまに馴染みの関係を継続している。電話や手紙の取次ぎなども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度や性格を配慮した上で席を定め、利用者同士が穏やかに過ごせるように努めている。また、共同で行えるレクや生活作業に関わることでお互いに支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に、一時支援から外れる本人を見舞ったり、家族との連絡を取りながら、退院後のフォローを続けた。 退所されたご家族も継続的に訪来して下さり、相談等にも応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別のコミュニケーションを取ることを大切にしている（居室入浴・散歩時等） 自己発言ができない人などは表情仕草、動きのサインを見逃さないよう配慮している。 本人の訴え・対応ノートを用い職員間で共有し、本人の思いに近づけるようにしている。	日常の会話の中から思いや意向を聞き、言葉や表情・サインなどから把握している。会話が困難な利用者や話をするが意思疎通が困難な利用者も、表情やしぐさで把握するように努めている。それまで話さなかった利用者がホームに来て話をするようになった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から聴き得た生活歴や日常会話の中から情報を拾い、その人らしい暮らしが出来るように全職員が共有している。（なじみの美容院・スーパー・医療機関等）		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通じて、本人の身体状態を把握した上で、出来る事を行って頂いている。洗濯たたみ、料理、野菜作り等、個々が得意とする事や役割を見出しケアに結びつけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しは毎月のミーティング時に行い、往診時の医者や看護師等の意見を参考に介護計画の見直しを行っている。本人や家族の意向・希望を取り入れたプランを作成し、状況の変化に応じながら、支援が行えるようにしている。	本人や家族の意向を確認し、主治医や関係者の助言も取り入れ、担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、利用者一人ひとりの現時点での問題と課題を職員全員で話し合っている。必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の状態の変化に伴う不穏時の対応等を、要望・訴えノートを設け、記録を残している。また、介護日誌を活用し、職員全体で利用者の状況を把握・共有して介護計画に沿ったケアの実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿った通院介助・外泊・買い物等の要望支援。往診、医療連携等柔軟な支援やサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の立ち会いでの災害訓練行事等でのボランティアの受け入れや本人の希望に応じたなじみのスーパーへの買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援する。受診時には心身の状況や健康面を伝え適切な医療が受けられるように支援している。かかりつけ医の往診、歯科往診、医療機関からの医療連携体制（1/W）等も行い、利用者や家族の安心を得られるようにしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診となっている。協力医療機関と医療連携や緊急時の体制ができています。母体医療機関から医師の訪問がほぼ毎日あり、専門医療機関の受診も家族または職員が同行し、適切な医療を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との契約による医療連携の訪問をとっている。看護師は利用者様の異常時や特変時には担当医に連絡し、適切な診療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には書面での必要な情報を提供して、その後についても相互の情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に向けた対応については、事業所の方針を説明、家族との意向も確認し、同意を得ている。利用者の病気の状態や対応については医師、家族の意見を尊重した話し合いで治療の方向性を定めていきたい。	重度化や終末期に伴う対応の指針を入所時に説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い随時話し合い、主治医や関係者が連携して、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命救急の研修や事故発生時の対応は社内研修を行っている。今後も定期的にホーム内勉強会を実施していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、昼夜想定避難訓練や講話を定期的実施している。日々の業務の中でももしもの事態に備える訓練も行っている。隣接された法人内研修等で、災害（地震・水害・津波）に向けた勉強会も行われ災害時の協力体制も出来ている災害時の水・食料も備蓄されている。	年2回、消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練を地域の協力を得て実施している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置し、2ユニット間の協力体制もできている。防災器具の点検・巡回・器具の整備も行われている。災害時の水や米・インスタント食品等が3日分ある。大量に必要な時は医療機関が隣接し、備蓄をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを図る時には声掛けは同じ目線、会話は笑顔で安心感を持っていただけるように心がけている。実習生や関係者の入室の際も声掛けを行っている。また私物整理等は利用者と一緒に行っている。	個々人の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。マニュアルに沿って勉強会をしている。トイレ誘導や居室への入室はノックするなどプライドを損なわない対応を行っている。コミュニケーションは同じ目線で行い、その人に会ったケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表すことが困難な方もおられるが、仕草や表情などから汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を本人のペースで生活して頂きながら、一人ひとりの精神状態や体調を考慮し本人らしく生活が出来るように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望に応じて、美容院に出かけたり、必要に応じて、訪問理美容サービスを行っている。行事等は、化粧などして楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の漬物作り、そば打ち、お好焼き、手作りギョーザ等、利用者のできる事に配慮した料理教室を行っている お誕生日の献立は、利用者や家族に尋ね好物を提供している。敬老会や母の日等のイベントの時はバイキング料理を行い、本人が選ぶという楽しみも味わって頂いている。	旬の食材で利用者の希望に添った献立や食事形態を工夫している。利用者の力量に応じて準備や片づけを職員と一緒にしたりしている。料理教室があり利用者也エプロンをつけてお好み焼きやそば打ち・餃子・漬物等を作っている。行事食や誕生会・バイキングと食事が楽しみなものになるよう工夫している。家族も一緒に食べてもらったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量、食事量を記録に残し、一人ひとりにあった食事形態と栄養状態に応じた食事を提供し、体重の増減にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、入居者の状態に合わせ、見守り、一部介助を行っている。義歯は、夜間、洗浄し清潔を保っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン(チェック表)や時間帯での誘導、声かけを行って、トイレでの排泄を促し失敗への精神面も大切にしている。昼間は、オムツから紙パンツ使用に変えることで快適に過ごせるよう自立支援につなげている。	排泄チェック表で排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を大切にしている。おむつを減らす取り組みをしている。水分調節や運動・食事の工夫で自然排便と排泄の自立を支援している。おむつからリハビリパンツへ、布パンツへと自立している。排泄用品の費用も減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターン(チェック表)や時間帯での誘導、声かけを行っている。便秘予防の為に水分・野菜をしっかり摂取しながら軽体操を行い、予防に取り組んでいる。便秘が続いている場合には、腹部マッサージを施行している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時は、ゆっくりとコミュニケーションを図れる場となるように配慮している。また、入浴中での健康管理の為に水分補給も行っている。入浴を楽しめるように、春は菖蒲湯、秋にはゆず湯を用意し、また洋服等入浴の準備も一緒に行っている。	入浴は週に3回位で、全員がゆっくり入浴できるタイミングを見ながら気持ちよく入浴できるように支援している。利用者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。脱衣所との温度差にも配慮している。入浴剤の菖蒲湯やゆず湯も行い、入浴を楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	心地よい休息をとって頂くため に、室温・湿度調整や明るさ、 音に配慮している。入床までは 会話やテレビを見て頂いたり、 好きな事をして過ごして頂いて いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	個々の薬の整理、仕分けを行っ たり、処方の変更があった場合 は申し送り時に全職員が把握で きるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	洗濯たたみや料理の下ごしらえ また野菜を作ったり、裁縫など 行うことで、生きがいのある生 活が送れるように支援している また、生活を楽しむ工夫（お茶 時の談話やレクリエーション） を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日光浴や地域周辺散歩を行って 季節、景色、隣人との会話を 楽しんでいる。 家族の協力のもとで、集会や冠 婚葬祭、外食・外泊支援を行わ れるように支援している。 施設行事として花見・ショッピ ング等の計画も体調、安全面を 配慮した上で予定されている。	日常的には天候や体調を見なが ら個々に希望を聞いて散歩や買 い物・外気浴を行っている。計 画を立てて花見や地域行事のか かし祭り・買い物などに出かけ ている。家族の協力を得ながら 外食や外泊・墓参り・理美容院 等の利用などの支援も行ってい る。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ家族の了解を得てお金を預かっています。本人が管理が出来る方は財布を所持し要望に応じ買い物支援を行い、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の要望に応じて、いつでも電話がかけられるように体制作りをしている。また、贈り物のお礼の際は、本人にも電話でお礼をしていただくようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくりと休めるソファを設置し明るく、清潔で異臭のない空間作りや音、明るさ、湿度にも配慮している。ホールには季節の花を飾り、また四季の移り変わりを感じる壁面を入居者と一緒に作っている。台所からは、食事を作っている光景や音・匂いが伝わり生活感のある空間となるように工夫している。	ホールは中庭に面して四方から太陽がそそぎ、明るい光があふれて開放感がある。採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。利用者は、ゆったりとソファに座りくつろいでいる。玄関入り口には季節の花が植えてある。ホールの壁面には職員と一緒に作った季節を取入れた飾りつけがなされ、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの間に光庭があり、窓越しにひなたぼっこをしたり、季節の花や野菜を見たりして、空間を楽しんでいる。また、ホールでは、雑誌を読んだり、ソファにてテレビを見たりして、一人での時間をゆっくり寛げるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの寝具、使い慣れた家具・家族写真、プレゼント、日用品を持ち込んでいただき、個々の生活パターンに応じた、清潔感があり、居心地良く、のんびりと暮らせるような居室作りを目指している。	居室はドアが広くベッドとタンス・机・椅子は備え付けである。テレビや三面鏡・加湿器等、馴染みの物を持ち込んでいる。ほとんどの人は書道が好きで、その作品や折り紙等が飾られており、安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安心して移動ができるように手すりを設置しまた、車椅子の走行は自立と安全面を配慮し、環境整備に努めている トイレ・居室は目印で本人が場所の確認が出来るように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない